

	Never Give Up Act on my own Change myself Knowledge is money	Neo 名寄高校2期生(通算79期生) 18号(進路特別号) 令和6年10月24日 進路担当: 佐川 大樹
---	--	---

☆大学見学バスツアーの報告②

駿台予備校を出た後は、北海道大学に移動しました。北大では本校の卒業生である太齊 蓮さん(令和2年卒)、渋梨子 大也さん(令和5年卒)と合流し、まず文書記念館を訪れました。文書記念館では北大の開学時の資料が展示されており職員の説明の下、当時の学生がいかに苦勞して学んできたかが伺い知ることができました。

文書記念館を出てお昼にしようと思っていたとき、私たちに想定外の出来事が起こりました。それは……



学食が閉まっている……

以前なら土曜日でも当たり前のように営業していて、一般の人でも気軽に利用できていたのですが、昨今の物価高の影響でしょうか。念のためホームページでこの日は営業していることを確認したのですが、最新情報が更新されていなかったようです。せっかく学内の雰囲気を感じてもらいたかったのに残念です。しかし、卒業生の渋梨子さんが機転を利かせてくれて、行きつけの食堂に電話。22人分の席を確保してくれました(とても頼りになりました)。

食後は理学部にある総合博物館に行きました。そこで今年北大を卒業した本校 OG の松村日奈さん(令和2年卒・現在北大病院勤務)も会いに来てくれました。実はこの3人、いずれも私のクラスの生徒ですが**3人とも北大の入学の仕方が違う**のです。

松村さんは一般受験で当時のセンター試験と2次試験の合計点で合格しました。言い方は変ですが世間一般が想像する入り方をしています。渋梨子さんはフロンティア入試(typeⅡ)という総合型選抜で入学しました。フロンティア入試が始まったのが令和4年度入試なので、彼が受けたときはまだ2年目で世間的にもあまり知られていない入試でした。調査書、個人評価書、自己推薦書の第1次選考を通過した後、数学、物理、化学の適性試験と面接で合格を勝ち取りました。

一方、太齊さんは現役のときに北大を受験しましたが不合格となり、岩手大学に進学しました。そして今年、岩手大を卒業して北大の大学院（修士課程）に入学しました（もちろん大学院入試を突破しています）。実は、大学を卒業するとその先に大学院というさらに専門的な研究を行なう教育機関があります。そして大学院は試験に合格すれば、違う大学から入ることも可能です。大学院には修士課程と博士課程があり、それぞれ論文を出して審査に通れば「修士（マスター）」「博士（ドクター）」という学位を取得できます。大学に進学してから自分を見失わずコツコツ努力をして研究し続ける姿にただただ尊敬します。

北大を後にして最後は北海道教育大学旭川校を訪れました。ちょうど学園祭（六凌祭）が行なわれていました。教育大では林あいかさん（教育発達専攻）、片岡涼さん（理科教育専攻）、大霜優杏さん（芸術教育専攻）、範国雪花さん（国語教育専攻）、難波史菜さん（英語教育専攻）5人の先輩が来てくれました（いずれも令和3年卒）。それぞれ専攻が違いますので、18人の生徒を自分の文理希望によって4つのグループに分け、彼らに学内を案内してもらいました。私は理系ということもあり片岡さんについて行き話を聞きましたが、教師を目指す訓練をしているだけあって話が非常に上手いです。人前で臆することなく堂々と話をするというのは大人でもなかなかできないことです。

以上が、今回のバスツアーの内容です。基本的には2年生がメインの企画で、こちらはただそれに便乗させてもらいました。来年はこちらが企画し、皆さんの後輩と一緒にということになるかと思いますが、いかんせんバス代がこちらが想像している以上に高騰して来年実施できるかどうかわかりません。



この企画は参加したからよくて、参加しなかったらダメとか、そういう単純なものではありません。今回参加した生徒が、参加しなかった生徒にいい影響を与えることが大事です。逆に参加しなかった人も参加した人から何かしらの刺激を受けて、みんなで頑張っていこう、切磋琢磨していこうという雰囲気全体を作っていくことが、これからの皆さんに求められます。そうなったとき、このバスツアーの本当の目的が達成されたといえると思います。また、このバスツアーに関して、同窓会やPTAから旅費の一部を補助していただいています。至るところで名高生の活躍を期待している人たちがいるということも忘れてほしくはありません。